

T・ベントリー学び集

UNDER THE WINGS OF AIRPLANE

飛行機の 翼の下で

1

金の器社

T・ペンタリー学び集

UNDER THE WINGS OF AIRPLANE

飛行機の 翼の下で

教者の紹介

みなさんに、ベントリー兄をご紹介します。

私が、四十五年ぐらい前に、会社にはいったときの先輩のひとり、ベントリー兄でした。その会社には実に、集会の兄弟が三十人ぐらいいました。飛行機を造る会社でしたが、毎日、会社の昼休みに、飛行機の翼の下で学び会をやりました。そして、そのとき私は、もちろんベントリー兄に教えていただきました。

三十五年ぐらい前から、伝道者としてマレーシアで伝道しています。マレーシアは厳しい回教の国です。ですから、回教の信者に伝道することは禁じられています。

兄弟は、北アイルランドの生まれです。そして、現在、北アイルランド、イギリス、アメリカ、カナダなどに、よく学びのために招かれておられます。

一九九〇年九月

J・B・カリ

目次

教者の紹介

まえがき

第一章 レビ族の相続地

第二章 雅歌 その一

第三章 雅歌 その二

第四章 祈られた主（ルカの福音書）

第五章 すわられた主（マルコの福音書）

第六章 足を洗われた主（ヨハネの福音書一三章）

第七章 ピリピ人への手紙一章

131

113

91

67

49

29

9

第八章	ピリピ人への手紙第二章	155
第九章	ピリピ人への手紙第三章	181
第一〇章	ピリピ人への手紙四章	207
第十一章	テサロニケ人への手紙一章	233
第十二章	テサロニケ人への手紙二章	249
第十三章	信仰のたし算（ペテロの手紙第二・一章）	267
第十四章	世について（ヨハネの手紙第一）	293

あとがき

まえがき

ここに、トーマス・ベントリー兄の学び集を、読者のみなさまにお送りできますことを、神様に感謝しつつ、とてもうれしく思います。

思えば、ベントリー兄の学びを聞いたのは、三年前の府中の学び会のときでした。とても心に響いてきたことを覚えています。その少し前に、私の手元にワープロが届いており、そのときの学びを文章化したい、という思いが芽生えました。

前々から、学びを文章化することに関して、深い関心を抱いていましたが、先に、牧草社より、「来日スコットランドの兄弟の学び」が刊行されたり、伝道出版社「みことば」誌にも、続けて、学びの文章化したものが掲載されるようになり、この働きの必要性も確信することになりました。

また、ここ数年、すばらしい教者が来日され、私たちは大きな恵みをいただきました。この恵みを、多くの兄弟姉妹と分かち合う方法の一つとして、ここに「飛行機の翼の下で」を刊行いたしました。

タイトルの意味は、カーリー兄の教者紹介によって、説明の必要はないと思います。私たちも、飛行機の翼の下にすわって、熱い太陽の光を避けて、涼しい日影の場所で、ベントリー兄の学びに耳を傾けようではありませんか。

最後になりましたが、文章化に際して、適切なアドバイスと、校正の労を取ってください。た塩田多三郎兄、大野仁三兄に、この紙面を借りて心から感謝いたします。

一九九三年一〇月

山梨にて

望月 初男

第一章 レビ族の相續地

一九九〇年一〇月一日（月）

鶴見にて

今晚、こちらの集会のみなさんとともにおりますことは、私にとってひじょうに大きな喜びです。神のみことばを聞くために、集まっていたいただきましてありがとうございます。主を中心として私たちがみことばを考えている間、神様が私たちを祝福してくださいますように祈っています。

今晚、ヨシユア記からみことばをお読みいたします。一三章一四節です。

14節　ただレビの部族だけには、相続地が与えられなかった。主が約束されたとおり、イスラエルの神、主への火によるささげ物、それが彼らの相続地であった。

今度は一三章三二節です。

32、33節　これらは、エリコのあたりのヨルダン川の向こう側、東のほうのモアブの草原で、モーセが割り当てた相続地である。

レビ部族には、モーセは相続地を与えなかった。主が彼らに約束されたとおりにイスラエルの神、主が彼らの相続地である。

一四章一節です。

1〜4節 イスラエル人がカナンの地で相続地の割り当てをした地は次のとおりである。その地を祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシユアと、イスラエル人の諸部族の一族のかしらたちが、彼らに割り当て、

主がモーセを通して命じたとおりに、九部族と半部族とにくじで相続地を割り当てた。

モーセはすでに二部族と半部族とに、ヨルダン川の向こう側で相続地を与えており、またレビ人には、彼らの中で相続地を与えなかったからであり、

ヨセフの子孫が、マナセとエフライムの二部族になっていたからである。彼らは、レビ族には、その住むための町々と彼らの所有になる家畜のための放牧地を除いては、その地で割り当て地を与えなかった。

今度は一八章になります。